

日時 **2019年1月14日**

14:00 開始 16:30 終了

報告

アスベストとは何か？その危険性について

永倉 冬史 (中皮腫・じん肺・アスベストセンター)

熊本地震とアスベスト

中地 重晴 (熊本学園大学)

熊本地震での行政の取り組み

(熊本市、熊本県 予定)

アスベストの法規制

外山 尚紀 (東京労働安全衛生センター)

ワークショップ

目でみるアスベスト

榊原 洋子 (愛知教育大学)

パネルディスカッション

会場 **熊本市国際交流会館**

国際会議室 (3階)

熊本市中央区花畑町4番18号

電話 096-359-2020

参加費 **無料**

特定非営利活動法人

**東京労働安全衛生センター**

問い合わせ 電話 03-3683-9765

Eメール center02@toshc.org

●この催しは独立行政法人 環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。

# 熊本地震とアスベスト

アスベスト(石綿)って何？ 吸い込むと長い潜伏期間を経て、中皮腫や肺がんなどの重い病気を発症するおそれがあります。1960年代の高度経済成長期に建材などに大量に使用され始め、関連の製造工場や建設現場労働者だけでなく、工場周辺の住民にまで被害が及び、2017年には1555人が中皮腫により死亡しています。2012年に全面使用禁止となりましたが、すでに使用されていた大量のアスベスト含有建材が私たちの身の回りに残されています。今後、適切な解体工事が行われないとアスベストを飛散させ、作業者だけでなく、周辺住民なども吸い込んでしまう危険性があるのです。

2016年4月に発生した熊本地震では多くの人的な被害と伴に9万棟を超える建物が被害を受けました。建物にはアスベストを含む建材が使用されていることが多く、地震による直接の被害またその後の解体工事によってアスベストが飛散する危険が増します。私たちは阪神淡路大震災と東日本大震災でのアスベスト対策の経験を踏まえて、熊本地震発生後から被災地での調査とアスベストへの注意を喚起する活動を行ってきました。熊本地震とその後のアスベスト対策の経験を報告します。また現在進行しているアスベスト関連の法改正の動向について報告と問題提起をおこないます。

阪神淡路大震災、東日本大震災の教訓を活かし、今から震災時におけるアスベスト飛散を想定した予防対策に取り組むことが必要です。今回のワークショップでは、誰でも簡単にできるスマートフォンを利用して石綿を観る方法を紹介します。アスベストによる環境汚染や健康被害を防止するため、どのような対策が必要なのかを皆様と一緒に考えたいと思います。ご参加をお待ちします。

## アスベストのリスクを知る ための講演とワークショップ

